

2015年1月5日

株式会社スカパー J S A Tホールディングス

弊社社長の年頭訓示について

弊社社長、高田真治は、本日の仕事始めにあたりグループ社員全員に対して次のように訓示を行いました。

株式会社スカパー J S A Tホールディングス 代表取締役社長 高田真治の訓示（要旨）

本年は、当社のルーツである衛星会社設立から30年、次の成長ステージに進むスタートの年だ。2015年度は、現行の中期経営計画の最終年度、さらに国全体が節目とする2020年へ向け次の計画を策定する重要な1年になる。

有料多チャンネル事業は、新顧客管理システムの活用により、顧客分析と戦略遂行能力を飛躍的に向上でき、有料放送マーケット拡大へ最適な商品組成ができるプラットフォームへ前進する。日本初の4K商用2チャンネルを開局し、政府の中長期のロードマップ作りに参画する中で、放送高度化時代の事業基盤の確立を目指す。WAKUWAKU JAPAN事業は、クールジャパン戦略の一端を担う態勢づくりを進め、早期の展開国及びビジネス規模の拡大と収益化を目指す。

宇宙・衛星事業は、いつでも、どこでも、何にでも繋がる時代へ、新たな衛星通信技術を活用した新規サービス開発を実現する。グローバルマーケットで戦える事業スキームを構築する。当社事業の成長への基盤インフラである新規衛星の調達と打ち上げを確実に成功させる。

成長へのキーワードである「マーケティング」と「イノベーション」について改めて確認したい。マーケティングにおいては、多様な客観データに加え、多様な人的交流から得られる情報や変容するマーケットを俯瞰してみることも不可欠だ。「イノベーション」は、最新・最適な技術・システムを活用して、お客様にとって新たな価値を提供する商品、サービスを創り出すことであり全員のテーマだ。

イノベーションと持続的成長には、これまでにない多岐にわたるコラボレーションも必須だ。今季、強い危機感を背景にJ12ステージ制に踏み切るJリーグさんのご理解を得て、開幕前に各クラブの新戦力やキャンプについての情報提供とプロモーション強化につながる新しいチャレンジも行う。コンテンツ強化には、あらゆる関係先とのコラボレーションが不可欠だ。宇宙・衛星事業の新規サービスとマーケット拡大においても、当社のリソースだけでできる領域は限られている。

我々は、組むにふさわしいパートナーとして今後も輝き続ける会社でありたい。本年、まず中計で掲げた利益目標の達成を確実にし、そしていかなる環境変化にも対応できる強固な事業基盤を確立しよう。

以上